

第9回一関市総合教育会議

日 時 令和元年6月6日(木) 10時00分～11時30分
場 所 一関保健センター 栄養指導室

次 第

- 1 開会
- 2 挨拶
- 3 懇談
これからの学校と地域のつながりについて（人口減少の中で）
- 4 閉会

一関市教育に関する大綱

【基本目標】

学びを広げ、人と地域が共に育ち、一関の未来を創る

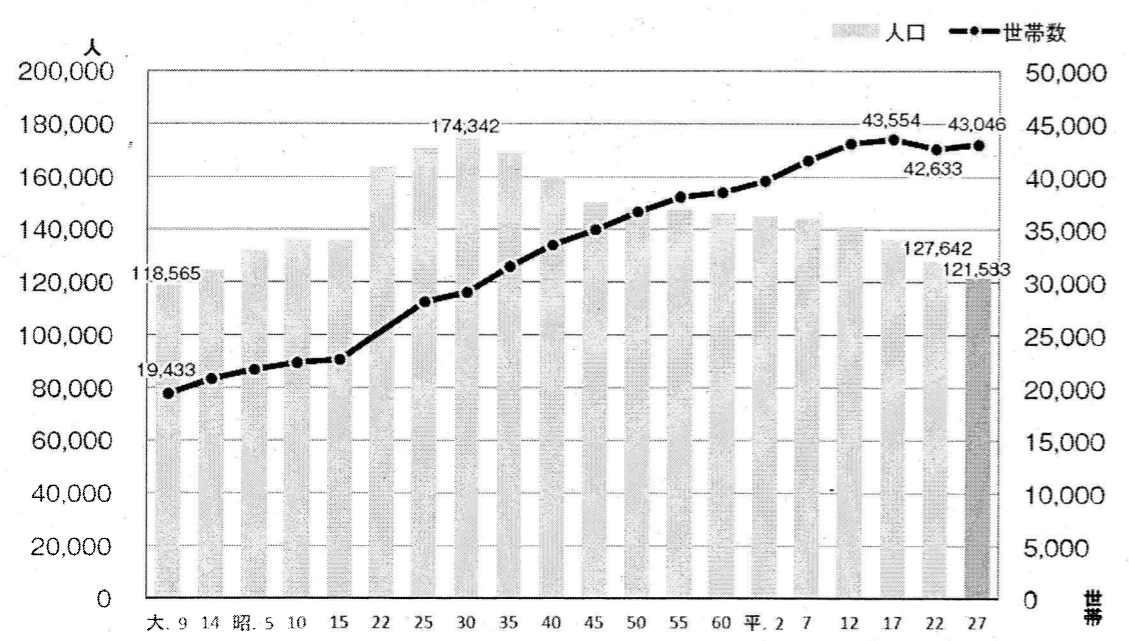
【基本方針】

- 1 生涯にわたる学びを応援し、まちづくりを担い、活躍する人づくりを進める
(縦軸の人づくり)
- 2 学校・家庭・地域の連携を深め、心豊かにたくましく生きる人づくりを進める
(横軸の人づくり)
- 3 郷土の歴史と文化を誇りにし、未来を創造する人づくりを進める
(時間軸の人づくり)

第9回一関市総合教育会議 出席者名簿

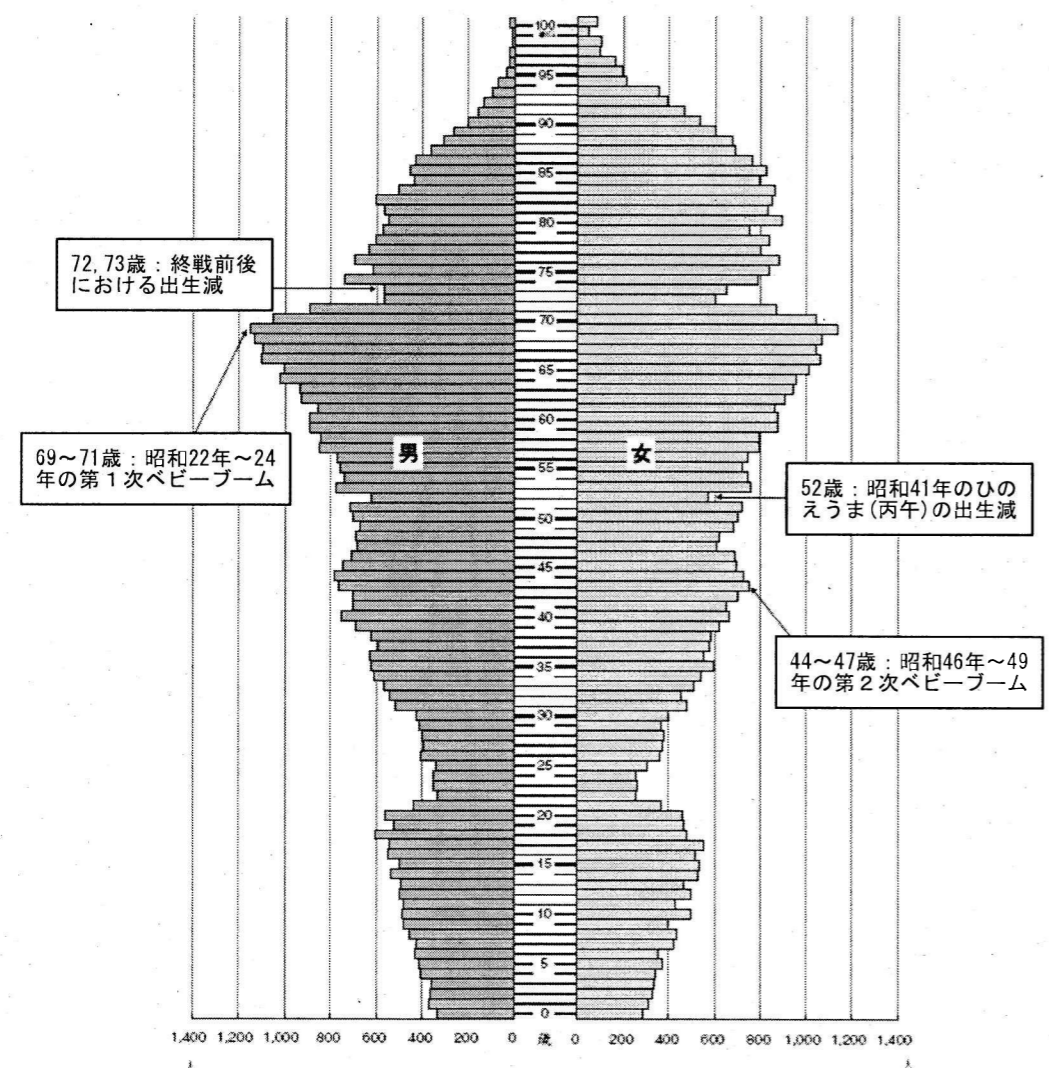
職		氏名	備考
【構成員】			
市長		勝部 修	
教育委員会	教育長	小菅 正晴	
	委員	千葉 和夫	
	委員	小野寺 眞澄	
	委員	佐藤 一伯	
	委員	伊藤 一志	
【ゲストスピーカー】			
市立山目小学校PTA会長		石津 幸輝	
本寺神楽		佐藤 ひろの	
【事務局等】			
市長公室	市長公室長	石川 隆明	
	市長公室長 兼政策企画課長	佐藤 正幸	
	政策企画課 政策推進係長	鈴木 敏宏	
	政策企画課 政策推進係主事	小山 真央	
まちづくり推進部	いきがづくり課長	伊東 吉光	
教育部	教育部長	千葉 敏紀	
	一関図書館長	千葉 秀一	
	教育部次長 兼学校教育課長	瀧野澤 徹	
	教育部次長 兼文化財課長 兼骨寺荘園室長	千葉 浩	
	一関市博物館次長	千葉 精一	
	教育総務課長	中田 善久	
	教育総務課長補佐 兼庶務係長	千葉 由紀	

◎一関市の人口・世帯数の推移



資料：国勢調査

◎人口ピラミッド

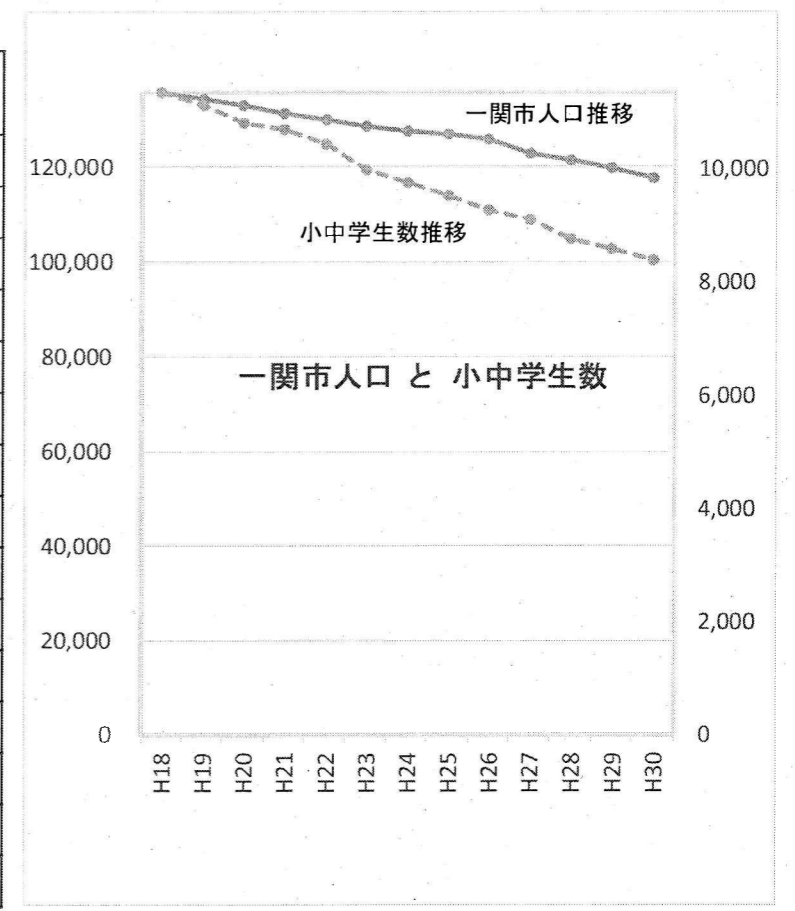


資料：岩手県人口移動報告年報（平成30年10月1日現在）

◎市立小中学校の変遷

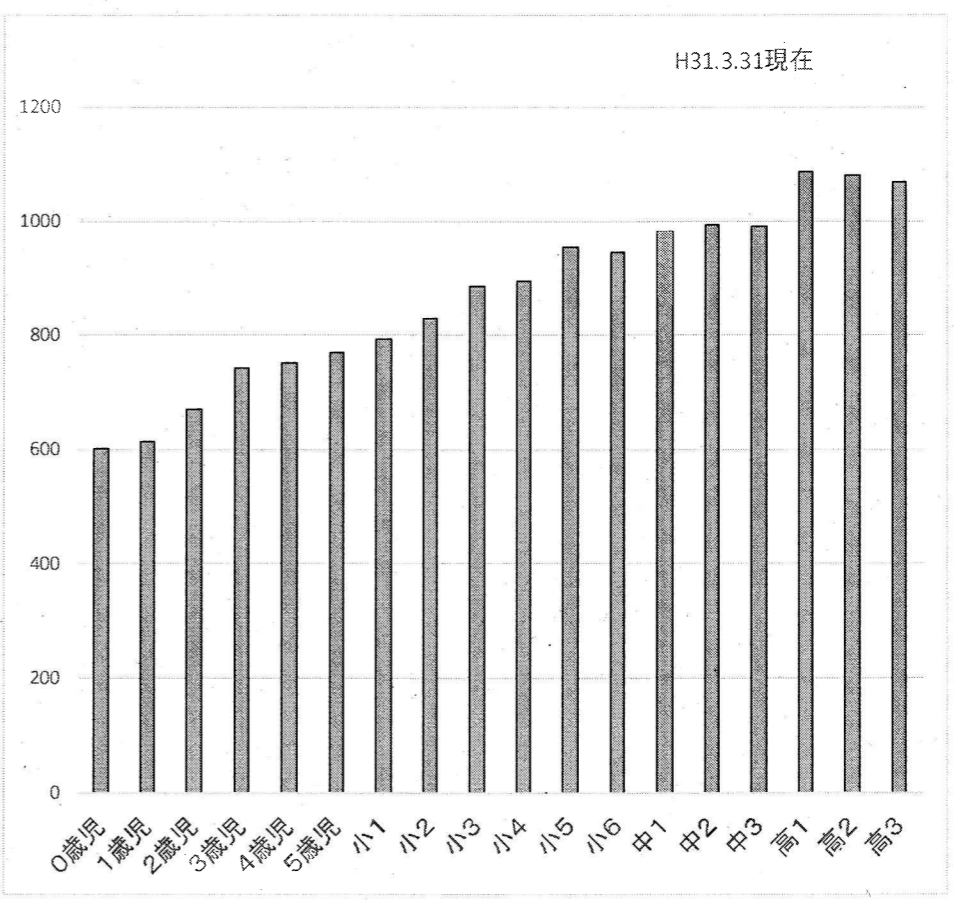
H17.9 合併新市誕生後

	小学校	中学校	計	小中学校減少数	年度末統合校数
H17	51	20	71		5
H18	47	20	67	4	
H19	47	20	67		2
H20	47	19	66	1	9
H21	41	19	60	6	2
H22	40	19	59	1	
H23	40	19	59		
H24	40	19	59		7
H25	36	19	55	4	5
H26	34	18	52	3	4
H27	33	17	50	2	
H28	33	17	50		
H29	33	17	50		9
H30	28	16	44	6	
H17以降の計				27	43



◎年齢別人口（高校生まで）

年齢	人口
0歳児	601
1歳児	613
2歳児	671
3歳児	743
4歳児	752
5歳児	768
小1	794
小2	830
小3	886
小4	895
小5	954
小6	946
中1	981
中2	994
中3	991
高1	1,086
高2	1,080
高3	1,068



「一関市まち・ひと・しごとを語る会」における主な意見・提言

◆「ひと」

1 結婚したいと思えるためには。結婚を希望する人が結婚できるためにはどうしたらいいか。

- (1) 結婚してよかったという話が聞こえてこない。仕事やプライベートが楽しいため結婚したいと思わない。年齢が増すと結婚に魅力がなくなる。年齢が増すと話が来なくなる。
- (2) 男性は経済的な面、女性は仕事の継続、親との同居が支障になる。長男や長女、一人っ子など、家のことを考えて、結婚に踏み出せない。女性の負担感を減らすことが必要。
- (3) 出会いの機会がない。昔は出会い・見合いの場を作ってくれる人が周囲にいたが今はおらず、若い年代であまり押し付けをせずに出会いを取り持ってくれる人がいるとよい。趣味などを通じた自然な出会いがあるとよい。
- (4) 婚活パーティーや街コンは、いかにも「婚活」的にやられると行きにくい。気軽に参加できるイベントがよい。実施する上では、地元では行きにくかったり、いつも同じメンバーになったりすることから、他地域と合同で開催するなど、場所やメンバーが変わるようにしたほうがよい。

その他の意見

- ・結婚希望していない人はどれくらいか？ 希望していない人の割合を調査してみてもいいか？
- ・以前は企業間の事業所の交流会があった。時代の流れで交流会もなくなった。人との出会いの機会がなくなってしまった

2 安心して出産、子育てができるためにはどうしたらいいか。

- (1) 産婦人科、小児科が少ない。
- (2) 出産や育児、赤ちゃんの病気について学べる場や、不安を相談できる体制があるとよい。
- (3) 仕事と子育てを両立できるような職場の理解が必要。夫の協力が必要であり、男性の育休がもっと活用されればよい。
- (4) 金銭的な支援が必要。検診が大変。

その他の意見

- ・放課後児童クラブをもう少し増やしてもらった方がよい。地域ボランティアの協力ももらって、近い場所にたくさん増やして。
- ・企業の育児支援に対する評価をしてみてもいいか？ いい企業に三つ星評価やメリットを与えてみては？

3 子どもが健やかに育つためにはどうしたらいいか。

- (1) 公園など遊べる場所の充実を求める。公園が安心できない。子どもたちがゲームなどで遊んで外に遊びにいかない。
- (2) 地域で子どもを見守ることが大事。子どもが地域の行事に参加できていない。
- (3) 育児について相談できたり、子どもを預けられたりといった支援を求める。父親の育児参加を進める取り組みが必要。

その他の意見

- ・キャリア教育が必要ではないか。テストや部活だけが大切ではなく、地域で子供にも役割を持たせて活動（例えば、祭りの準備を手伝うなど）を行う
- ・学童保育の送り迎えの問題が利用のネックになっていることもあるようだ
- ・「まちの駅」のように「ひとの駅」ができないか？ 歩いていける距離に子どもでも大人も、高齢者でも利用・交流できる場。子どもが遊んでもいい。お茶のみをしてもいい場となる

- ・平成27年5月30日・6月20日開催
- ・「まち・ひと・しごと」に関する視点から、テーマごとに意見をいただいたもの
- ・女性を中心とした市民25人が参加（両日とも）

◆「まち」

1 地域づくりに主体的に参加するためにはどうしたらいいか。

- (1) 地域活動は年配者が中心となっていて、若い人が参加していない。近い年代がないので、若い人が出たがらないという悪循環になっている。
- (2) 若い世代が参加しない理由として、土日休みではない人が増えていることや、部活動など子どもたちの行事を優先することが挙げられる。親が参加しないことで、子どもも大人になった時に参加しなくなる。
- (3) 役割を持たせて参加意識を高め、やりがいを持ってもらう。かつ、それを子どもの頃から続けていくことが大事。

その他の意見

- ・昨年初めて、摺沢七夕交流会が開催された。発信は官（公民館）。いろいろな世代でのイベントがあり、大成功だった

2 だれもが元気で暮らすためにはどうしたらいいか。

- (1) お年寄り生きがいを持ってもらうことで元気になるので、そのための機会を作ることが大事。
- (2) 高齢者だけでなく、若い人や子育て世代の人にも趣味の活動ができる場があるとよい。
- (3) 普段の生活の中にある健康を脅かす要因

3 安心して暮らすためにはどうしたらいいか。

- (1) 地域コミュニティとしてお互いを知っているという関係が安心につながる。現実には隣に誰が住んでいるか分からない。他人を警戒せざるを得ない。
- (2) 特に高齢の一人暮らしの方が安心して暮らせるように、定期的な見守りや見回りが必要。
- (3) 食や衣食住全ての充足が安心であり、そのための取り組みやPRが大事。

その他の意見

- ・街灯が少なく真っ暗。街灯の間隔が広く子どもが心配
- ・民生委員の仕事は増えている。気の休まる時がない。この仕事が好きでないといけない

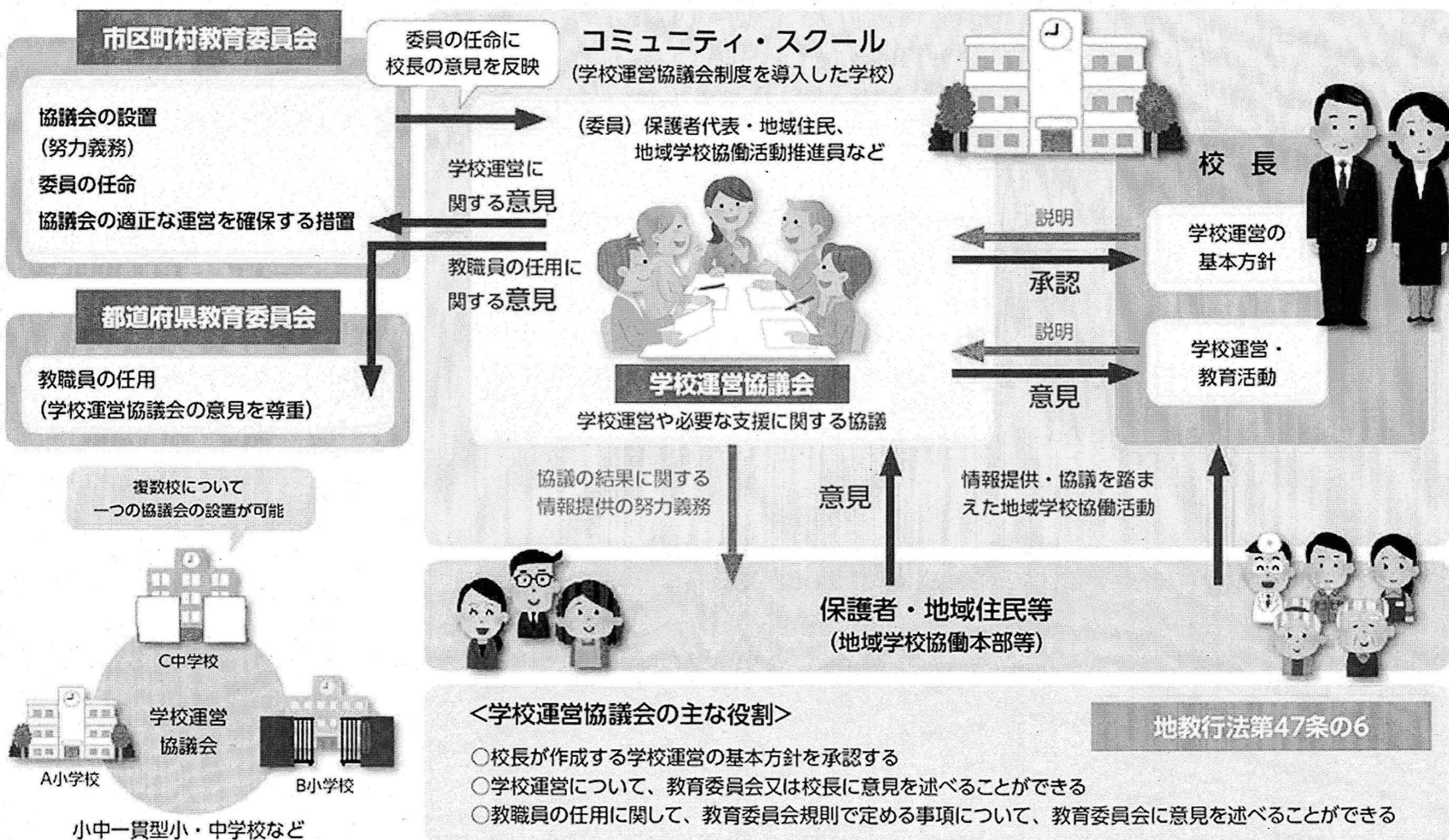
4 ふるさとに誇りと愛着を持つためにはどうしたらいいか。

- (1) この土地に生まれ、子どもの頃の楽しかった思い出があって愛着が生まれる。離れて外に出ることで愛着を持つ。
- (2) 外に出て戻ってきた人も、家庭の事情や何らかのきっかけによる。
- (3) 戻ってきたときに、仕事や遊ぶ場所などの選択肢が少なく、魅力がない。

その他の意見

- ・今の高校生は地元志向が強いので、定着できるような環境づくりを
- ・出て行った人に対するダイレクトメール。大東町の方が個人（3～4人）で出していたものがあったが、地元に住んでいる人が読んで面白く感じた

コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)の仕組み



いちのせきの家庭教育10か条

第1条 命の大切さ

教えよう
かけがえのない
命の大切さ



自分の命とみんなの命を大切に
する子に育ちます。

第2条 健康

元気のもと
早寝、早起き、
朝ごはん



規則正しい生活リズムと食習慣
で、健康な子に育ちます。

第3条 あいさつ

笑顔であいさつ
家庭から



家族の間のあいさつで、進んで
あいさつする子に育ちます。

第4条 家族愛

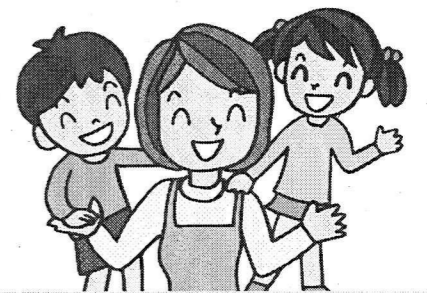
「大好きだよ！」
ことばと態度で
伝えよう



愛されていると感じると、心の
安定した子に育ちます。

第5条 感謝

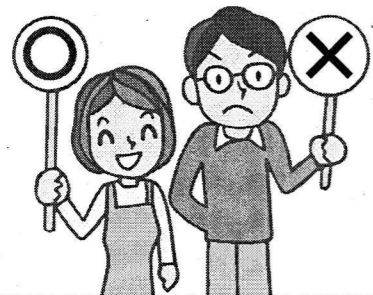
「ありがとう」
家族で交わす
感謝の心



誰もが笑顔になる魔法のことば
で心優しい子に育ちます。

第6条 善悪の判断

「ならぬことはならぬ」
やって善いこと
悪いこと



親の姿勢で、善悪の判断が
しっかりできる子に育ちます。

第7条 責任感

もたせよう
家での役割
責任感



毎日、お手伝いをすることで、
責任感のある子に育ちます。

第8条 感性

育てよう
親子で読書
豊かな心



ことばを学び、感性を磨き、心
の豊かな子に育ちます。

第9条 社会性

参加しよう
親子一緒に
地区活動



地区活動で、協力や奉仕の心を
もつ子に育ちます。

第10条 我が家の1か条

決めましょう。胸を張って、こ
れが我が家のルールです。